

【目指す学校像】 元気いっぱい 笑顔でつながる武蔵野小 三者(子供、保護者・地域、教職員)が笑顔で過ごせる地域の学校  
 【目指す児童・生徒像】 ○何事も自分ごととして捉え、自ら学びに向かい表現を楽しめる子 ○むさしのリーダーシップを身に付け、自他を尊重し、大切にできる子 ○基本的な生活習慣を身に付け、運動に親しみ、心身ともに活力に満ちた子  
 【目指す教師像】 ○児童の学びに火をつける教師 ○エンパシーを大切に、児童に寄り添える教師 ○組織の一員としての意識をもち、職層に応じた使命と役割を果たせる教師 ○服務規律を重んじ、児童・保護者の信頼に応える教師 ○ゆとりをもった精神状態で指導にあたる教師

前年度までの学校経営上の成果と課題 【成果】・コミュニティ・スクール委員会との連携 ・地域人材の発掘 ・在校時間の短縮 ・基本学習の時間の確保 ・共通指導の徹底  
 (箇条書きで簡潔に) 【課題】・身に付けさせたい資質・能力を意識した授業実践 ・児童が自ら思考し、豊かに表現する力の育成 ・自己有用感を高める指導の充実 ・心身ともにゆとりをもって児童とじっくり対面するための働き方改革

3つの施策	中期経営目標(施策の内容)	「取組・努力」の評価基準(学校・教職員の姿勢、取組状況)	評定	3学期評定	実態や改善に向けた意見	「成果」の評価基準(児童・生徒の変容)	評定	3学期評定	実態や改善に向けた意見
小中一貫教育を柱とした特色ある教育の推進	①小中一貫教育の推進	・9年間のゴールを見据え小学校と中学校の教育をつなぐ努力をしている。 ・乗り入れ授業を3教科(数・理・英)で実施している。 ・地域人材を活用した効果的な授業を実践している。 ・地域、保護者の方を活用することで学習が理解が深まった。	4 3 2 1	3.9	あいさつ運動や乗入授業は、円滑な接続、密な連携に向けて一定の成果があると感じた。ただ、形骸化している部分も見られるので、本来の目的を共通理解して取り組む必要がある。	・ゴールに向かった自身の力が身に付いた児童 75% ・中学進学イメージを具体的に描けた児童 80% ・地域の協力やかかわりの中で、児童が豊かに学んでいる 80% ・保護者、地域が参画する授業が充実している 80%	4 3 2 1	3.0	9年間を見据えた指導について共通理解を図ることができた。交流に関しては小中で温度差を感じることもある。小中一貫教育基本計画に則り、活動の意義を再確認し、より有効な取組になるようにする。
	②確かな学力の定着	・授業と朝学習、各種補習一体化と家庭学習の定着度の向上 ・指導と評価の一体化がされた授業を行い、確かな学力の定着を図っている。 ・児童が意欲をもって参加し、楽しくわかりやすい授業の工夫をしている。 ・3つの視点に沿ったユニバーサル・デザインによる授業を行っている。	4 3 2 1	3.8	家庭学習の啓発を全校で行い、各学級でしっかりと取り組ませることで家庭学習の定着度が向上した。それでも未定着の割合はまだ高いので、継続して取組をしていく必要がある。	・学習習慣が以前より身につけてきた児童 75% ・学ぶ意欲が向上したと肯定的に答える児童 80% ・自己の能力にあった学習に主体的に取り組んでいる 75% ・授業が分かりやすいと肯定的に答える児童 80%	4 3 2 1	3.9	放課後に補習指導をする時間が取れるようになり、児童の困り感に寄り添った支援ができるようになった。良かった。全ての学習の基盤となる言葉の力の向上を目指し、語彙力の向上や活用に向けた取組をしていく。
	③特色ある教育の推進	・相手意識をもった自律した行動が選択できる児童の育成を図る。 ・「コグトレ」を継続することで、意欲的に学習に参加する児童を育成する。 ・多様な他者とのつながり、協働的な学習環境を積極的に作っている。 ・授業だけではできない多様な学習の場を児童に提供した。	4 3 2 1	3.3	CS委員会の方のご尽力により、多様な他者とながら、多様な学習経験を積むことができた。今年度の実施したCSの活動を基に、年間計画を立てられるようにする。	・リーダーシップが身に付き、正しい行動選択できるようになった児童 80% ・コグトレをすることで、勉強がわかりやすくなった児童 70% ・他者とながらすることで、自分の考えがより深まった 85% ・学びに対する意欲が向上したと肯定的に答える児童 80%	4 3 2 1	3.5	むさしのリーダーシップの5つの習慣、4つの土台の言葉は浸透してきた。しかし、その用語が子供たちの口から自然と出てくるまでには至っていない。様々な教育活動を通して実践的な取組となるよう工夫していく。
	④新しい課題に対応した教育の推進	・生活習慣の改善・充実を図る活動を推進している。 ・情報活用能力の育成計画に沿って指導している。 ・図書館を活用した探究的学習を行っている。 ・児童が活字に触れる機会を意図的に創造している。	4 3 2 1	3.5	図書館を活用した卓球的学習はできたが、活字に触れさせる機会が十分とは言えなかった。限られた時間の中で、教員が意識的に活字に触れさせる機会を創出していく必要がある。	・グッドモーニング60分ができていた児童 80% ・情報モラルを守って、正しく端末を使用することができた 95% ・図書館を使って調べ学習など探究的な学習をしている 50% ・一人月平均3～5冊の本を読んでいる 70%	4 3 2 1	2.6	グッドモーニング60分は定着してきたが、一定数の過程においては、改善が見られない。保健の面からも啓発場面を増やしていく。図書館司書の先生と連携をとり、読み聞かせや教材準備ができた。
	⑤人権教育の推進と道徳教育の充実	・人権感覚を磨きき細なことも見逃さないようにしている。 ・はむらの道徳科授業指針に沿って授業を行っている。 ・学校は自他を大切に作る心の育成をしている。 ・校内研究を生かし、振り返りを活用し児童の成長を見取る。	4 3 2 1	4.0	校内研究で道徳に取り組んだことで、様々な教材や授業の仕方を学ぶことができた。自分ごととして、考えをもつ道徳の授業を行うためには、言語理解や言語活用能力を鍛えていく必要を感じる。	・困ったことがあったときは、大人に相談することができる 100% ・正しい言葉遣いを意識して生活することができる 80% ・道徳の授業では、自分の考えをもつことができる 100% ・振り返りノートに自分ごと化できた記述をしている 95%	4 3 2 1	3.3	SOSカードで、相談できる大人を明確にできたことはよかった。いつでもだれでも相談週間を活用し、児童へメッセージを発信していきたい。担任の枠を超えて副担任が道徳授業をすることで多様な価値観を与えることができた。
多様なニーズに応じた教育の推進	⑥特別支援教育の推進	・なかよし学級の活動の幅を広げ、インクルーシブ教育を推進する。 ・障害者理解教育を全学級で取り組む。 ・個別指導計画に沿った支援を行っている。 ・校内委員会を中心に共通理解のもと全職員で支援する。	4 3 2 1	3.0	困難を抱える児童の担任の先生が苦勞ないよう、家庭との連携等を組織的に取り組んでいく。今年度のように、特別支援教育研修スクールカウンセラーを活用したり、OJT研修を活用して、継続して児童理解につなげていく。	・学年や学級に関係なく、誰とでも仲良く過ごすことができる 80% ・なかよし学級制の活動は楽しい 100% ・郊外においても障害のある人に親切にできる 95% ・困っている友達がいたら進んで声をかけることができる 95%	4 3 2 1	4.0	固定学級併設校の強みを生かし、なかよし学級の取組の充実を図る。むさしの学級の担任による児童に向けての、特別支援学級の理解教育を計画的系統的に行っていく。
	⑦児童・生徒が楽しく通える学校の実現	・日常場面を活用し、むさしのリーダーシップを推進する。 ・児童の自己有用感が高まり、前向きに取り組む姿がある。 ・気になる様子の児童に対し、すぐに声をかけることができる。 ・児童が自分ごととして参加する道徳授業を実践する。	4 3 2 1	3.5	むさしのリーダーシップを日常生活から意識させる取組の成果が徐々に出てきた。自己有用感もわずかだが向上している。道徳授業において、校内研究でねらいにした児童の主体性が育まれた。	・自分が学級や学校のために役立っていると感じる 70% ・友達のことを大切にしている 90% ・困ったときに相談できる大人が校内に3人以上いる 60% ・道徳の授業では、自分の考えを持つことができる。 80%	4 3 2 1	2.8	道徳授業で育まれた主体性を他教科へと広げていく。一人一人の児童に寄り添い、受容することを徹底し、安心感を与えていく。学年団で子供たちを育て複数の目で児童の行動を認めるという視点を大切にしていこう。
健やかな成長を支える教育環境の整備	⑧児童・生徒理解に基づく指導体制の構築	・児童のよさを発見したり、共有することができる。 ・いつもで気兼ねなく相談できる教職員が3人以上いる。 ・心にも時間にもゆとりをもって働くことができる。 ・体罰及び不適切な指導ゼロ	4 3 2 1	3.0	ライフワークバランスを大切に、心に余裕をもって職務に当たること、児童理解を深めることができた。児童のよさについての会話があふれる職員室を構築していく。自身の人権感覚の向上へ向けた意識改善常に行っていく。	・友達のよさやがんばりをみつけることができる 90% ・学校にはいつでも相談できる大人がいる 100% ・教職員は笑顔で働いている。 90% ・体罰調査 0件	4 3 2 1	4.0	「SOSカード」の取組を着実にを行い、児童との関わりを増やし一人一人の児童の安心感を高める。ライフワークバランスを大切に心にゆとりをもって児童と接していく。エンパシーを駆使して互いを思いやっていく。
	⑨OJTを中心とした校内研修体制の確立	・OJTによって自己の成長が見られる。 ・OJTの指導者側となることで、さらに見識が深めることができる。 ・楽しく分かりやすい授業のために工夫する努力をしている。 ・小グループを活用することで、気兼ねなく相談できる。	4 3 2 1	3.5	中堅教員によるOJTは効果的であり、指導側立つことで、より学びを深めることができた。自己申告期間を中心に授業参観をしているが、より柔軟に互いに授業を見合わせるシステムの工夫が必要である。	・学級経営が安定していて、児童が落ち着いている。 90% ・学校は、児童に確かな学力を身に付けられるよう努力している。 80% ・学校は、意欲的に学習できるよう、授業を工夫している。 80% ・教職員がゆとりをもって働いているのが分かる 80%	4 3 2 1	3.8	新しい教育に向けた端末を使う授業展開等については、若手教員からも学べる機会を作っていく。本校に在籍している指導教諭の授業を参観できる機会を増やし、学びを深められるようスケジュールの調整を行う必要がある。
	⑩保護者や地域住民の協力・参画	・地域人材を活用することでより充実した活動をしている。 ・学校の様子を積極的に伝え、教育活動の公開に努めている。 ・HPの適時更新し、活動をブログで発信している。 ・学習支援を積極的に保護者・地域に依頼している。	4 3 2 1	3.8	CS委員会との連携ができて、充実した授業を行うことができるようになった。学校ブログもほぼ毎日更新され、情報発信ができていく。一方、閲覧者数の停滞が残念である。	・保護者、地域の人と勉強するのが楽しい 95% ・保護者、地域と勉強することでよりよく分かった 95% ・学校の話や毎日家族と話をする 80% ・家庭教育への支援を適切に行う努力をしている。 80%	4 3 2 1	3.3	道徳授業地区公開講座のように、保護者と児童が共通した話題について過程で話す機会を増やしていきたい。保護者向けのリーダーシップ研修を計画し、家庭でもむさしのリーダーシップを推進してもらえるように工夫する。
学校の特色	学校の特色や独自性のある取組	・振り返りを言語化させることで書字への抵抗が減った。 ・自分の考えを発表する場面を意図的に増やす授業の実践 ・図書館を有効活用した言語活動を行っている ・グッドモーニング60分を機会あるごとに啓発している。	4 3 2 1	2.8	授業の振り返りの記述を徹底することで、書ける文章が着実に増えてきている。毎時間、意見交流の場を設定することで、自分の意見をもつ意識が高まり、相手に伝えることができてきた。今後はわかりやすく伝えられるようにする。	・文字を書くことが楽しい 70% ・自分の思いを伝えることが楽しい 80% ・図書館では、読書以外の勉強をしている 70% ・登校60分前に起きることができた児童 80%	4 3 2 1	2.5	文字を書くことが楽しいと答えた児童は7ポイント上昇し、書字に対する抵抗感が減少している。コグトレやむさしのリーダーシップなど児童・保護者も認識が深まっている特色が出てきているので、全校で継続して取り組んでいく。